

【開催報告（国際研究連携、インド）】

第4回日本・インド研究協力によるワークショップ及び現地調査を開催

国土交通省国土技術政策総合研究所(以下、「国総研」という。)は、平成25年2月18日から2月23日にかけて、関係独立行政法人と合同で、インド内務省国立災害管理研究所(National Institute of Disaster Management、NIDM)とのインド国デリー首都圏でワークショップ及び、インド北部ウッタラーカンド州での現地調査を行いました。

これは、日印両国首相による「安全保障協力(災害対策含む)に関する共同宣言」に基づく安全保障協力を促進するための「行動計画」に位置付けられており、平成22(2010)年1月にインド内務省国立災害管理研究所(NIDM)と締結した地すべり危機管理に関する研究連携の「覚書」に基づき開催したものです。

◎トレーニングワークショップ(2月21日～22日)

トレーニングワークショップは、デリーのNIDMにおいてインドの土木研究者・技術者等を対象として開催しました。

ワークショップでは、国際研究推進室長の司会のもと、国総研からは、日本の地すべり災害の発生状況と対応、地すべり対策工事の対応事例等について発表しました。インド側からは、インドでの地すべり発生の現状と課題および斜面安定に資する植生についての発表がありました。



ワークショップの様相



国際研究推進室長による司会



国総研からの発表

日本側が研究を進めている地すべりモニタリング技術について、対象フィールドへの適用も検討しています。インド側からは大学や研究所から多数参加し、今後の研究協力を進める上での相互理解を深めるために、活発な意見交換が行われました。

◎相互理解の促進



写真 UCOST (Uttaranchal state Council for Science & Technology)にて

ウットラーカンド州都デヘラードウーンの州科学技術局にて局長はじめ地すべり専門家らの参加により意見交換を行いました。様々なレベルの技術交流に向けて良好な素地を形成することができました。



写真 IIT(Indian Institute of Technology)-Roorkeeにおける意見交換

ウットラーカンド州ルールキーにてIIT(Indian Institute of Technology-Roorkee) の教授および学生と地すべりについて意見交換し交流を深めることができました。



写真 NIDMIにて

共同研究先であるNIDMでは、覚書に調印しました。

◎現地調査の様子



写真 左：地すべり滑落崖の調査 右：地すべり被災箇所を道路より望む（右側は河川）

ウッタラーカンド (Uttarakhand) 州 モハント (Mohand) NH72A 沿い

ウッタラーカンド (Uttarakhand) 州 モハント (Mohand) の(National Highway)NH72A沿い道路沿いの地すべりを現地調査しました。

<開催の経緯>

- 2009.3 連携ニーズの把握と技術特定に関する現地調査等実施 (ニューデリー)
- 2010.1 第1回WS (つくば) を開催
- 2010.2 「インド国内務省災害管理研究所との災害管理に関する研究連携覚書」の締結
- 2011.3 第2回WS (シッキム州ガントク) を開催
- 2012.2 第3回WS (シッキム州ガントク) を開催